

別府市立図書館情報システム更新業務プロポーザル審査結果

別府市立図書館情報システム更新業務に係る公募型プロポーザル方式について、別府市立図書館情報システム更新業務プロポーザル審査委員会を設置し、参加者からの企画提案等について、厳正な審査を行った結果、候補者を下記のとおり選定したので公表します。

記

1 業務名

別府市立図書館情報システム更新業務

2 受託候補者の名称

(株) オーイーシー

3 審査方法

(1) 資格審査

資格審査では、応募者から提出される参加申込書等の提出書類を基に、応募者が参加資格要件を満たしているかを確認する。本審査は当市が実施し、参加資格要件を満たしていることが確認できない場合は失格とする。

(2) 評価基準及び配点について

評価項目		配点
企画提案書評価		
1	本業務に対する基本的な考え方	各委員1人につき20点
2	システム機能	各委員1人につき40点
3	システム・ネットワーク構成	各委員1人につき30点
4	セキュリティ対策	各委員1人につき30点
5	操作研修・本稼働支援	各委員1人につき10点
6	スケジュール・構築体制	各委員1人につき30点
7	データ移行	各委員1人につき20点
8	運用保守	各委員1人につき50点
9	追加提案	各委員1人につき20点
機能評価		
申請者のシステム機能確認書（兼回答書）を基に算出した得点を機能評価点とする。		30
価格評価		
申請者の参考見積を基に算出した得点を価格評価点とする。		20

(3) 各評価項目の得点化

ア 企画提案書評価

企画提案書評価については、評価項目ごとに、次に示す判断基準により各評価項目の配点に配点率を乗じたものを得点とする。

各評価項目の得点は、審査委員の評価点の合計の平均値とする。なお、平均値は小数点第 2 位を切り捨てした値とし、各評価項目の平均値を合計した得点を企画提案評価点とする。

評価	判断基準	配点率
A	特に優れている	各項目の配点×1.00
B	優れている	各項目の配点×0.75
C	平均的である	各項目の配点×0.50
D	仕様を満たしているが内容に乏しい	各項目の配点×0.25
E	劣っている	各項目の配点×0.00

イ 機能評価点

【得点基準】	○ … 5点 △ … 3点 ▲ … 1点 × … 0点
【計算式】	機能評価点 = 得点 / 満点 × 配点 (●) ※小数点第 2 位切捨て

ウ 価格評価点

【計算式】	価格評価点 ^(※1) = 最低見積価格 ^(※2,3) / 当該申請者見積価格 ^(※3) × 配点 (※1) 小数点第 2 位切捨て (※2) 最低提案価格は、提案価格の最も小さい応募者の価格とする (※3) 最低提案価格、提案価格は 5 年の合計値で算出する
-------	---

(4) 審査について

応募者から提出された企画提案書及びヒアリングを基に、各委員が評価（採点）した企画提案評価点と機能評価点及び価格評価点を合計した点数を評価点とした。

なお、評価点が最低制限基準（300点満点の60％）に満たない場合は、最優提案者として不適格と判断し選定せず、再募集を行うこととした。

4 参加者の評価点

(単位：点)

	受託候補者	A社	B社	C社
本業務に対する基本的な考え方	15.0	13.0	15.0	12.0
システム機能	32.0	30.0	30.0	20.0
システム・ネットワーク構成	21.0	18.0	19.5	16.5
セキュリティ対策	22.5	18.0	19.5	18.0
操作研修・本稼働支援	6.0	5.5	6.5	5.5
スケジュール・構築体制	18.0	18.0	16.5	16.5
データ移行	12.0	12.0	11.0	11.0
運用保守	40.0	27.5	40.0	27.5
追加提案	17.0	14.0	15.0	8.0
機能評価	30.0	29.6	29.8	26.9
価格評価	15.1	20.0	14.9	15.0
合計点	228.6	205.6	217.7	176.9

5 審査講評

本業務は、新図書館への移転に伴う機器類の更新と I C 機器の導入を行い、利便性の高い図書館サービスを利用者に提供するため、最先端の情報通信技術とセキュリティ技術に柔軟に対応できるクラウド型の図書館情報システムを構築するものである。

最優秀者の企画提案は、パソコンやスマートフォンの表示が見やすく、使いやすいシステムであり、ネットワーク構成においても高いセキュリティ対策による安全な通信環境を構築する計画となっていた。

また、導入システムは、公共図書館への実績が多く、柔軟で拡張性もあり、データ分析の活用も期待できることが評価された。

さらに、運用保守について、県内に拠点があり迅速な対応が可能な点や、専用ヘルプデスクによるワンストップサービス、障害発生時から復旧後まで利用者サービスを中断せずに業務継続が可能な体制も高く評価された。

今後、市が目指す課題解決型図書館の実現をシステム面から支援することが重要であり、令和 8 年 3 月の新図書館開館に向けて司書と入念な打合せを行うなど、市と十分に協議しながら、安全で確実なシステム構築と導入スケジュールを遂行するとともに、以下の点を特に要望する。

- 1 システム導入効果を高めるため、データ分析による利用傾向の可視化や蔵書分析など市の要望に応じた独自の機能を積極的に提供し、図書館 DX の推進を支援すること。
- 2 スマートフォン等を活用した非来館サービスについて、利用者登録や蔵書検索などだれでもどこでも利用しやすいアクセシビリティの向上に努めること。
- 3 図書館システム専用ヘルプデスクについて、システム構築担当技術者による運用保守を継続するとともに、平日に加えて土日祝日の受付対応も可能とすること。
- 4 司書の専門性を活かしたビジネス支援等に役立つ I T 研修など、司書がスキルアップするための学習機会を提供し、課題解決型サービスを支援すること。